

コードブルー適応範囲を学部棟の一部にも拡大するなど 運用体制が一部見直されました

この度、コードブルーの運用体制が一部見直されました。コードブルーとは、院内等において、患者さん、その家族や面会者等の病状急変時に、医師、看護師等の複数の応援を必要とする場合に発せられるものです。

これまで、附属病院内に体制見直しのためのワーキンググループが設けられ、協議が行われてきました。この度、その検討結果が病院経営企画会議に報告され、承認されました。主な運用見直し項目は以下の通りですが、適応範囲に学部棟の一部が含まれたことから、附属病院に所属しない教職員の皆様も、その運用体制について、一度ご確認ください。

- 1、小児の場合の応援要請の呼称の新設
→「コードブルーベビー」とする
- 2、一斉放送時間帯の拡大
→6：00～22：00とする
- 3、夜間同時連絡先の一部変更
→「救急支援当直医」から「HCU当直医」へ変更
- 4、報告書様式「別紙3」の改正
→新様式を電子カルテ掲示板に掲載
- 5、コードブルー適応範囲の拡大
→学部棟1、2、3、11号館を追加

※コードブルー適応範囲「外」のエリアや施設での緊急時は、コードブルーを発するよりも救急車を要請の方が早い対応が可能のため、119番通報を行ってください。



コードブルー適応範囲
内線 3100

範囲外のエリア、施設
緊急時＝救急車要請



治験実施者を表彰

薬の候補となる薬剤などの効果や安全性・治療法などを確認する目的で行われる治験に対し、積極的な取り組みを行った医師や団体を表彰する「治験実施者表彰」の授与式が、3月11日附属病院定例部長会に先立ち行われ、個人3名、団体1組が表彰されました。受賞者は以下のとおりです。

【個人表彰】

- ・血液内科 助教 高橋 裕志
- ・乳腺外科 助教 野田 勝
- ・脳神経内科 助手 吉澤 茉莉

【団体表彰】

- ・検査部

個人表彰の血液内科の高橋助教、乳腺外科の野田助教はそれぞれ同科で実施している企業治験において、脳神経内科の吉澤助手は同科で実施している医師主導治験において積極的に被験者対

応を行ったこと、団体表彰の検査部は当院での実施案件が過去最高水準となっているなか、時間外の検体処理対応や血液検査、生理検査などへの協力により当院の治験実施において重要な役割を果たしていることから受賞となりました。

授与式では鈴木病院長が「多忙な臨床業務の中での治験の実施に心より感謝します。特定機能病院、大学病院として新しい治療の開発は使命でもあり、今後も他の先生方の手本として治験の実施に尽力いただきたい。」とあいさつし、日ごろの治験業務に対する労をねぎらうとともに、今後の治験へのさらなる貢献に期待しエールを送りました。

表彰式の様子
写真上 左より
高橋 裕志 助教
野田 勝 助教
吉澤 茉莉 助手
検査部・山寺 幸雄 技師長



令和元年度病院長特別表彰が授与されました

附属病院の経営改善や業務改善、事故の未然防止、教育・研修・診療等に特に努力し、それぞれの功績が顕著な所属等に対して、毎年、病院長特別表彰を授与しています。

今年度の表彰者は5つの所属等に決定し、3月11日に本学S101会議室において表彰式が執り行われました。鈴木病院長から各所属等の代表者に対して、日頃の業務への感謝を述べるとともに、表彰状及び記念品を授与しました。

◆DMATチーム

令和元年台風19号の災害対応に尽力し、多大な貢献を果たしました。

◆手術部

手術件数の増加のために尽力し、経営改善に多大な貢献を果たしました。

◆薬剤部

インシデント対策に積極的に取り組み、事故発生の未然防止に貢献しま

した。

◆小児科

小児の緊急入院患者を積極的に受け入れ、経営改善に多大な貢献を果たしました。

◆救命救急センター

救急医療施設として、多年にわたり

救急医療の確保に多大な貢献を果たしました。

表彰式の様子 左から
DMATチーム、手術部、薬剤部、小児科、救命救急センターの代表者の皆さん

